明正ゼミナールだより

― 1月号 ―　**2018年**

2020年といえば東京オリンピックでありましょうが、教育におきましては、文部科学省が推し進めている新学習指導要領がスタートします。

ゆとり教育から大きく方向転換をして、課題を解決する為の思考力、判断力、表現力を求めるというもので、知識を詰め込んで終わりでなく、その知識を活用する能力を養うということで、私も大いに賛成なのですが、それを大学入試や高校入試で取り入れる必要はないと思っています。基礎をしっかり身に付けた生徒を、大学や高校で、思考力や判断力を身に付けるような授業をすればいいのであって、入試の段階でその能力を点数化することには反対であります。思考とは入試の例えば一時間という短い時間でいいのでしょうか。問題を解決するにあたり、一日、いや一週間、いや一ヶ月考え続けるということが大事であり、科学者の多くは一年中頭の中に問題をため込んで考え続けているものです。

ただ、今までの一般的な受験勉強の在り方は、問題だとは思います。その責任は塾業界にもあるのではないかと感じていて、効率よく合格させるために、解き方を先回りして教え、多くの問題を解かせる。これは英語や社会は良いのでしょうが、数学のように考える能力を養うべき科目が記憶の能力になってしまう傾向があること、これに危機感を覚えています。一度やった問題なら分かるけれど、やったことのない問題は解けないというか、解こうともしない生徒を作ってしまっている。そんな生徒は「賢い」といえませんよね。ましてや、そのやり方では、考える楽しさや、解けたときの喜びなどを味わうことが出来ません。

明正では、考える習慣を身に付ける最良の制度は、ジュース問題だと考えています。ジュース問題で一番真剣になるのは、中学一年生です。問題が解けた生徒もそうでない生徒も、真剣に考えることで、必ず脳が発達しているのです。私は塾を始めてからずっと、真に賢い生徒を育てたいと願い、君達を指導してきたつもりです。

「子曰わく、学びて思わざれば則ち罔(すなわ)く、思いて学ばざれば則ち殆(すなわ)し。」

孔子が言った、視たり、聴いたりして他から学んだことを、自分なりに思考しなかったなら、道理にくらいものになってしまう。逆に、他から学ぶことをせず、ただ自分だけで思考するならば、独善に陥る可能性がある。
学ぶこと、思考すること、両方が大切であると、孔子さんは言っています。

連絡事項

〇英語検定〇　検定日　2018 年 1 月 21 日(日)
準2･4級　10 時～、3･5級　13 時半～、2級　14 時半～　　二次試験　2 月 25 日(日)

●漢字検定●　検定日　2018 年 2 月 4 日(日)
2級　10 時～、準2･8･9･10級　11 時 50 分～、3･5･7級　13 時 40 分～、4･6級　15 時半～
各自、しっかり勉強してから検定に臨んでください。検定時間(特に漢検)に注意してください。

mpi Bright English Club　受講生募集のおしらせ

①幼児クラス（３歳以上の未就学児）＜毎週土曜 PM3：30～4：20＞
②小学校低学年クラス（小１～３）＜毎週土曜 PM1：30～2：20＞
③小学校高学年クラス（小４～６）＜毎週土曜 PM2：30～3：20＞

mpi メソッドで目指すのは**「世界の同世代と英語でコミュニケーションできる 15 歳」！**

詳しくはお問い合わせください。　　明正ゼミナール　森川　☎0595-84-0134